

ふる～ぶ

吉野川ファン通信

VOL.86

2007/4

「ふる～ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1 page [特集] 吉野川アラカルト

吉野川の春を愛でよう。 野草バイキングと紙ヒコーキ大会

『春に集う』をテーマに、若草色に染まる吉野川堤防で
ヨモギやノビルなどの野草を摘み、みんなで料理をして
食べるというイベントを開催。
紙ヒコーキも楽しみました。

3 page 吉野川いまむかし 柿原堰と板名用水編

4 page ふる～ぶ編集部がおじゃましま～す! 市場小学校 楽しく学んでEスクール

5 page ふる～ぶめいと通信 川漁と合格わらぞうり

6 page Ra♪Ra♪Ra♪ エッセイ ハーブを育ててみませんか。 ふる～ぶ INFORMATION 吉野川“レキ河原”アンケート 結果

7 page よりよい吉野川づくり<第23回> 吉野川水系河川整備計画【修正素案】に対する ご意見を聴く会 開催結果一覧

ふる～ぶひ・ろ・ば
編集後記・今月の表紙イラスト・おたより・プレゼント



吉野川の春を愛でよう。 野草バイキングと紙ヒコーキ大会

冷たい北風の吹く冬に終わりを告げると、吉野川にも、春がやってきます。

日差しがきらきらとやわらかさをまし、堤防も若草色に染まる春は、野草摘みの季節です。

ふる～ぶでは、ふる～ぶめいとリーダーとともに、毎年、吉野川でヨモギやノビルなどの野草を摘み、実際にみんなで料理をして食べるというイベントを、開催しています。

毎年、大好評をいただき、多くの方にご参加いただいているこのイベント。

今年は、『春に集う』をテーマに、3月4日 石井河川防災ステーションにて、開催しました。



イベントを支える ふる～ぶめいとリーダー [リハーサル 2月15日]

ふる～ぶめいとリーダーの皆さんが中心となって、開催している野草つみと野草料理。今年で、6回目となりました。全てボランティアで活動

してくださっているふる～ぶめいとリーダーの皆さん。イベント当日は、吉野川に、どんな野草が生えているか、野草の説明をしてくださったり、野草のレシピを考えてくださったり、会の進行全てについて、支えてくださっています。

どんなイベントの前にも必ず行うのが、リーダーの皆さんが集まってのリハーサルです。今年は、2月15日の木曜日に開催されました。メニューの確認や、全体の時間の流



イベントに向けてのミーティング。
大塩さんに紙ヒコーキの作り方を聞く。

れの確認、また、野草摘みの場所の安全面の確認など。今年は、自然のままの素朴な味わいを大切に、以前作ったレシピから、ヨモギだんごやヨモギごはんのおにぎり、ヨモギのてんぷら、ノビルとカラシナの酢味噌あえを作ることに

なりました。また、それとあわせて、わらじづくりのイベントで、いつも先生になってくださっている大塩さんが、新聞広告の

紙などで、簡単にできる紙ヒコーキを教えてくださいました。せっかくなので、大会も開催することに。

いろいろと、計画が湧き上がって、準備は大変ながら毎回楽しみのリハーサルが開始されました。

実際に野草を摘んだ後、仕分けをして、調理開始。「実際に、作って楽しみながら、細かいことは、気にせず、やりましょう」とわきあいあい。そうそう昔の遊びは、きっとそうだったんですよね。ヨモギの白玉だんごのかたさは、これくらいかな？

やっぱり、ヨモギのてんぷらは、けっこういけますね。今までのイベントでは、危険を避けて作らなかったてんぷらだけに、安全面では、注意を怠らなくてはなど、話をしながら、リハーサルは、進んでいきます。

試食の後には、みんなで紙ヒコーキ作り。いろいろなパターンを教えていただき、童心にかえって、ヒコーキを飛ばしていました。「これは、おとなでも楽しめますね」野趣あふれた料理と、紙ヒコーキ。あとは、本番が楽しみです。



ゆがいたヨモギを洗い、水にさらす。



料理が完成。



ノビル

ユリ科の多年草。花が咲かないうちに堀り、食用にする。酢味噌あえにすると、ほろ苦い風味が、口のなかに広がる。



ヨモギ

キク科の多年草。食用とするのは、若芽や、柔らかい葉。独特の香りがある。



カラシナ

吉野川の春の風物詩である菜の花。実は、昔から日本で栽培されているアブラナではなく、それによく似たカラシナや、一般に飼料カブと呼ばれているアブラナの一種が栽培されていて、それが河原に逃げだしたものの。



この日は、少し風が冷たい日でした。
リハーサルでの野草摘み。



春に集う笑顔の一日

〔3月4日 快晴〕

まさに、春らんまん。「私を見て」とばかりに咲く花々に、青い空。

シャツ1枚でも、

大丈夫な温

かい陽気に

恵まれて、当

日は、スタッフ

もあわせて41

名が集まりました。

参加者の方には、

毎年このイベントを

楽しみにしてくださ

っている方もいて、私

たちスタッフも、毎年出会えるお子さ

んの成長を楽しみにしています。もち

ろん、今年はじめて参加してくださ

た方も。新たな出会



吉野川の堤防でみんなで野草摘み

なの熱気と、調理の湯気で、ぽっかぽかとなりました。

その間は、大塩さんが、子どもたちに、

新聞広告の紙で

できる紙ヒコー

キや、音の鳴る

紙でっぽうや、

紙風船の作り

方を教えて

くださり、

熱心に取り

りくんでいました。そ

の後、子どもたちが、大人の指導

を受け、白玉だんごをまるめて、調理

室にて、ゆがきました。この指導は、参

加者の方がしてくださいました。

ふる〜ぶめいとリーダーの長江さん

が竹で作った器に盛られたヨモギ

のてんぷら、カラシナとノビルを白味噌、

酢、砂糖を混ぜた



竹の器に入ると、ヨモギのてんぷらも映えます。

酢味噌であえた酢

味噌あえ、ゆがいたヨモギを細

かく刻んでごはん混ぜ、塩で

調味したヨモギごはんのおにぎ

り、白玉粉に水を入れ、ゆがいた

ヨモギをすりつぶして、こね

あげた白玉だんご(きなこ、あ

ん添え)、その白玉だんごをい

れた味噌汁。ふる〜ぶめいとリ

ーダーの森さんが作ってくださ

った菜の花のお漬物、テーブル



できあがった紙ヒコーキを飛ばす。

の上にはこぼれんばかりの春、春、春。

野草摘みの時に、摘んできた草花も飾

られ、春が満開モードとなりました。

「ふだん、食べたことがない野草も、

おいしく食べられた」「野草を摘むのも、

楽しかったし、美味しかった」「紙ヒコー

キを飛ばせたのは、たのしかった」

など、参加した皆さんの感想もさまざま。

住む場所も、年齢も違うさまざまな

人たちが交流し、野草を摘み、料理を

作り食べ、ヒコーキを飛ばす。あち

こちで、笑顔があふれ、「春に集う」

テーマそのままの、よき春の1日

となりました。



子どもたちも、だんごをゆがく。

いに、うきうき。

河原にでての野草摘みでは、「河

原にこれだけの野草があるとは、知

らなかった」「野草摘みって楽しい」

などといいながら、食材となるヨモ

ギや、カラシナを摘んでいました。

他の野草と違って、球根を土の中か

ら掘り出すノビル。土の中から、白い

球根が出てくるのが楽しいようで、み

んな夢中になっていました。

掘り出した野草を仕分けした後は、

3班に分かれて調理。いわゆる料理教

室では、ありませんので、参加者の方、

スタッフが力をあわせて、わきあいあ

いと、料理づくりです。調理室は、みん



みんなで、記念撮影。

吉野川 いま むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

柿原堰と 板名用水編

昔



板名用水成功式

大正3年(1914)11月29日に、名
西郡高志尋常小学校で開催された
当時の板名用水成功式の様子と、成
功式のプログラム。相撲など、当時
の様子をあらわしています。

昔



昭和9年 南北分水樋門工事中

それまで板名用水の組合員が全額負
担していた工事。この工事で初めて
県営工事を板名用水組合が請け負っ
て行いました。

今



(板名用水土地改良区提供)



吉野川柿原堰

板名用水土地改良区によると大正11年(1922)から
大正14年(1925)頃に撮影と推測。板名用水取水の
ために作られた堰。台風や大雨などの出水により、本流
が少しずつ南岸へ
移動しそのたびに
堰を延長しました。

昔



昔



吉野川柿原堰
現在も多くの農業用
水を取水しています。
また鮎を求めて太公
望が繰り出す場所で
もあります。

今

柿原堰取水樋門

毎秒5.5トンの水を取水し、阿
波市吉野町、板野郡上板町や
板野町へ水を供給しています。

今



吉野川流域も田植えの季節。柿原堰は、板名用水取水のために作られた堰です。
吉野川は、幾度となく氾濫をくりかえし、上流より肥沃な土砂を運んできました。
この土砂が、阿波藍の栽培に適しているとされ、阿波藩が藍の栽培を奨励したこともあって、阿波藍は急速に衰退をはじめました。
しかし、明治三〇年代に入り、ドイツで開発された科学染料が輸入されたことによって、阿波藍は急速に衰退をはじめました。
このようなことから、吉野川流域の村々でも、養蚕に取り組むものがでてきはじまりました。
しかし、生き物が相手の養蚕は、うまくいかないことも多く、思ったような収入がない。米を買いたくても、買うことができない。
そんなおり、高志村の庄屋、武知唯七は、自宅の池からポンプで水を引き上げ、水稻を栽培することを思いつきました。
この唯七や、土木のパイオニア名西郡長井内恭太郎の尽力により、
明治三十九年(1906)十二月起工、大正元年(1912)九月に工事が完成しました。
今回は板名用水や、柿原堰の昔の写真を紹介します。(昔の写真はすべて板名用水土地改良区提供)

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

市場小学校 の巻

徳島県の中北部に位置する阿波市にある市場小学校。市場小学校では「Eスクールいちば」が児童や先生の合言葉。EスクールのEは(Eco=環境にやさしい、いい学校、Enjoy=楽しむ)という意味が込められています。学校で環境ISOに取り組んでいく中で、「Eスクールいちば」という合い言葉が名づけられました。

学校では、いたるところに「5か条の約束」が掲示されています。活動が大きく広がっていったのは、平成17年度の6年生の総合学習からでした。当時の6年生が、下級生に科学の面白さを伝える「科学の祭典」を企画しました。企画をしたものの実現するためには、材料を買うための資金集めも必要です。そんな中で提案されたのがアルミ缶の回収でした。アルミ缶リサイクル省、古紙回収省、バザー省が結成され、全校児童に呼びかけ、保護者や先生も協力し、資金が集められていきました。1kgのアルミで30円。みんなの力が集まれば1,000円、2,000円になっていきます。そして各省から集まったお金を、6年生が運営する「国会」と名づけている6年生全体会で使い方や運用について話し合い、児童で作られている財務省が通帳で資金管理を行い、科学の祭典を開催。当時の6年生が卒業するときにも「リサイクル

楽しく学んでEスクール

業するときにも「リサイクルはいいことだから、ずっと継続していったほしい」と伝え、今も継続的に行われており、新たにプルタブの回収もスタートしました。科学の祭典は学校内で毎年開催され、昨年11月に行われた、あすたむらんどでのサイエンスフェアにも参加しました。実験の材料などもリサイクルによって自分達で集めた資金で購入されたものです。現在、中心的にコーディネートをしているのは5、6年生12名で構成されている環境委員会。取材に行ったときにはアルミ缶の回収を行っていました。

子どもたちからは「リサイクルできるものはしていきたい」「水や電気など節約できるものがたくさんある」「家でも心がけるようになって家族にもお願いするようになった」「おかずやごはんを食べる量しか器にいけない」「卒業しても自分できるリサイクルは続けていきたい」など、色々な話を聞くことができました。「Eスクールいちばビンゴ」も作られ、全校児童や先生もともに、自発的に環境教育にとりくんでいます。味噌汁プロジェクトなど、食育の視点からも環境を考える授業が行われている市場小学校。「自分のことを自分で決められる。環境だけでなく働くことや経済の勉強にもつながる。環境にやさしいことを自発的にしていけるような大人になってもらえれば」と話してくださった環境担当の藤本勇二先生。「これから児童、保護者、先生だけでなく地域全体に活動が広がり、もっと発展していけば」とも話してくださいました。これからも「Eスクールいちば」を合言葉に活動は続いていきます。



環境委員会のメンバー。リサイクルは楽しいと話してくれました。



サイエンスフェアで実験を紹介



ボランティア委員会によるプルタブ回収



(上) アルミ缶をひとつずつつぶしていきます。

(下) 校内でバザーを開催

児童で作られている財務省が通帳で資金管理を行い、科学の祭典を開催。当時の6年生が卒業

5か条の約束

- 水や電気を大切に使います。
- 自分のものや学校のものを大切に使います。
- ゴミのポイ捨ては絶対にしません。
- ゴミをへらすことを考えます。
- 環境のことをしっかり勉強します。

吉野川ミニ辞典

け 計画高水位

堤防の設計・河道の整備などの基準となる水位のことであり、計画規模以下の洪水は、整備完了後には計画高水位以下の部分を流れます。(現況では計画高水位以下の水位でも氾濫する場合があります)





「ふる～ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めと レポート

川漁と合格わらざうり

つるぎ町 大塩 邦光さん

教員時代、受験生に「ミニわらざうり」
を贈り、激励してきました。それには次のような文
章をつけました。

「祈 合格。古くから、わらざうりは川漁では川底
で滑らないために履きました。その意味から、わら
ざうりは滑らない→合格を意味しています。ここで

は片方を用意しましたが、片
方は努力することによって、
合格を勝ち取ってください」

受験では誰もが不安になり、

何か心の支えになるものを求めるようになります。

このような時に心のよりどころになればと思い、ミ

ニのわらざうりを贈ることにしました。今年は、町

内の3中学校3年生全員に贈り激励しました。

長い人生には検定試験や資格試験もあります。

その時にも、故郷の大きな吉野川とわらざうりを思

い、合格を勝ち取ってほしいと思います。



大塩邦光さん

📁 「祈 合格わらざうりプレゼント」

大塩さんが今回のレポートで送ってくださった
「祈 合格わらざうり」を抽選で5名様にプレゼントします。
ご希望の方は、お葉書または、FAXに
住所、氏名、電話番号、誌面の感想もおかきください。
締切は4月27日(金)です。

プレゼント応募先

〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「祈 合格わらざうり」プレゼント係
TEL&FAX:088-623-6085



祈 合格わらざうり



ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる〜ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

ハーブを育てて みませんか。

春本番です。休眠期を終えたハーブ達にも目覚めの時がきました。クッキングやティーに利用される方にも、フレッシュハーブが利用できる季節です。また、ガーデニングやコンパニオンプランツとしての利用など、多彩な活躍が期待されるハーブです。初めての方は、苗を手に入手して苗から育てる方法と、園芸店や通販で種子



を購入して、種で蒔いて育てる方法があります。また、既に育てている方は、前記の方法以外に、挿し木や挿し芽、株分け、取り木などの方法で増やし育てる方法があります。

◆種で蒔いて育てるハーブ

一般的に、ハーブの種はとて小さいものが多いので、あまり地中深く埋めないようにしましょう。

フェンネル・コリアンダー・バジル・マスタード・ディル・イタリアンパセリ・カモミール・チャービル・ポリジ・ロケット・サマーサボリー・バレイアン・キャラウェイ・ユーカリ・ヘリオトロープ・ルー

◆挿し木や挿し芽で育てるハーブ

挿し木は、直接土に挿します。土に入れる部分の葉を落とし、花も落として土中にそのまま挿します。根が出るまでは、水やりを絶やさないうちに。雨季

にはよくつきます。ミントは、水に浸けておいても発根します。ローレル・ローズマリー・セージ・ローズゼラニウム・スイートマジヨラム・タイム・ヒソップ・マートル・レモンバレーナ・ラベンダー・ベルガモット・バジル・クレソン・チエストツリ・ティーツリー・カランコエ

◆株分けで育てるのが お薦めのハーブ

種または、挿し木の可能なものもありますが、比較的株分けで簡単にできます。

◆取り木で株を増やせるハーブ

タイム・ローズマリー・セージ・ワイム・ウッド・ジャスミン・カロライナ・ジャスミン・ミント・サザン・ウッド・コモン・マロウ・ハニー・サックル・スイート・ハーブ・メキシカン・エルダー

【黒川慶子さん経歴】

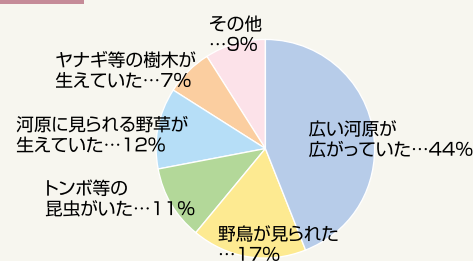
ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

ふる〜ぶ INFORMATION

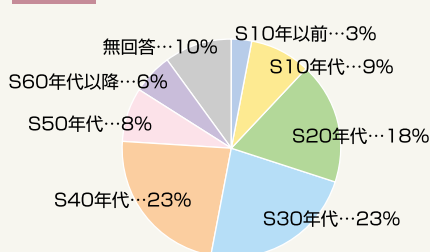
吉野川“レキ河原” アンケート結果

先頃、徳島河川国道事務所において、吉野川の「レキ河原」に関するアンケートを行いました。このたびは、「ふる〜ぶ」読者の皆様にご協力いただきましたアンケートの結果をお知らせします。今回のアンケートでは、352名の皆様から貴重なご意見を多数頂きました。これらの結果を参考に、今後の吉野川の川づくりの参考とさせて頂きたいと思います。

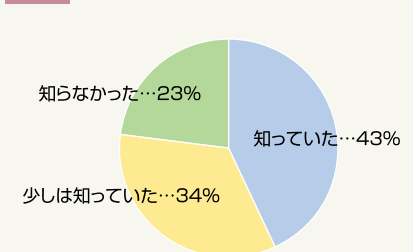
質問1-1 「昔の吉野川」の思い出は？



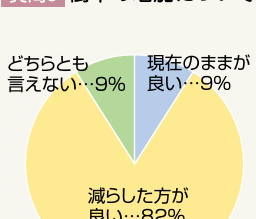
質問1-2 「昔の吉野川」とは何年代頃か？



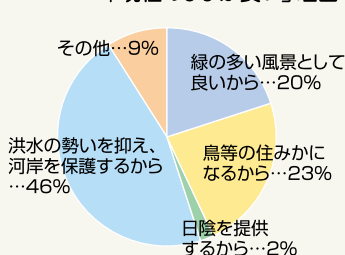
質問2 レキ河原が減少していることについて



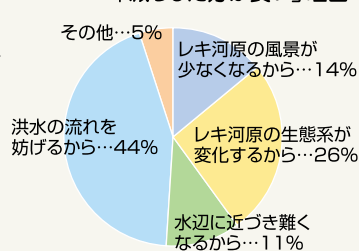
質問3 樹木の増加について



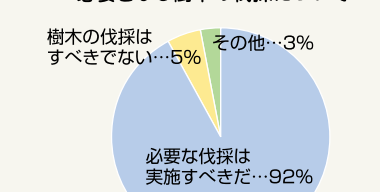
質問3-2 増えた樹木について、「現在のままがよい」理由



質問3-3 増えた樹木について、「減らした方がよい」理由



質問4 「レキ河原」を昔の姿に戻すために必要となる樹木の伐採について



吉野川水系河川整備計画【修正素案】に対するご意見を聴く会 開催結果一覧

四国地方整備局では、「吉野川水系河川整備計画」の策定に向けて、平成18年6月「吉野川水系河川整備計画【素案】」を公表し、その【素案】に対して、流域住民の皆さんや、各市町村長、学識者の方々にご意見をお聴きし、合計819件にのぼる数多くのご意見をいただきました。これらのご意見をもとに、修正した「吉野川水系河川整備計画【修正素案】」や、いただいたご意見すべてについて、それぞれに対する「考え方」を平成18年12月に公表いたしました。この【修正素案】に対する主なご意見をご紹介します。

上流域 高知県会場

平成19年2月10日…大豊町総合ふれあいセンター

- ◆ダム下流区間について、高知県と協議をして、直轄区間への編入に向け検討していただきたい。
- ◆下流の利益の方が優先され、ダムを造ったことによって生じる濁水などの環境問題に目を向けていないところがあるのではないか。

上流域 愛媛県会場

平成19年2月11日…霧の森交湯～館

- ◆銅山川の下流において、水質がどうなっているか知りたい。
- ◆洪水時のダムのゲート操作について、各ダムの連携は取り合っているのか。

中流域 平成19年1月27日…三好市中央公民館

- ◆人と竹林の共生ということをテーマに30年先までにこの良い状態を保っていくため、一生懸命考えて取り組んでほしい。
- ◆現在の環境について、データを示して、それをさらに保全してほしい。

下流域 平成19年1月20日…吉野川市文化研修センター

- ◆内水対策について、現在実施中の2箇所以外は、整備計画への記載がないことが残念である。被害の程度に応じて、もっと前進したものを示してほしい。
- ◆善入寺島について、農地や遊水地帯としての機能が充分説明されておらず、善入寺島の存在価値というものを見失っている。

下流域 平成19年1月21日…徳島県建設センター

- ◆想定外の洪水に対して、被害を減らすために、土地利用のあり方など、河川管理者として、河川以外の分野の行政や地域への提案が必要である。
- ◆吉野川は、汽水域のデータが多くある川なので、そういうデータを使って、具体的に環境の保全目標を織り込んでいただきたい。

下流域 平成19年2月3日…JA会館(1月21日の追加開催)

- ◆抜本的な第十堰の対策のあり方を除くという前提や、この会議の進め方の方式で、本当に住民の意見を反映した計画の策定ができるのか。
- ◆水質の観点から、廃棄物の対策についての考え方を教えていただきたい。自分たちの川であるという意識を流域の皆さんがもたないと、廃棄物の取り締まりには限界がある。

下流域 平成19年2月4日…北島町公民館

- ◆今切港周辺(今切川)の無堤地区に堤防を早期に整備していただきたい。
- ◆ゴミの不法投棄について、罰則規定がありながら有効に活用されていない。ゴミの不法投棄の取り締まりを厳しく当たっていただきたい。

今回は、流域住民の意見を聴く会の開催結果について、ご紹介しました。そのほかの開催結果につきましては、下記ホームページにて、ご覧いただけます。

今後の流域住民の意見を聴く会の開催日程などは、決定しだい下記ホームページやふる～ぶの誌面などで、紹介いたします。吉野川の川づくりに参加できる絶好の機会です。皆さんもぜひ会場に足を運んでみませんか？

よりよい吉野川づくり吉野川水系河川整備計画については
<http://www.yoshinoriver.info>

ふる～ぶ編集後記

自分で摘んだ野草がお団子になったりすると楽しいですね。みなさんもお出かけして是非野草を摘んでみてくださいね。(や)

今回の野草のイベントでは、初めて料理をバイキング風に大皿盛り。みんなでわいわい食べるのは、とても楽しかったですよ。今日の料理は、どれも簡単にできるものばかりです。ぜひお試しください(か)

今月の表紙イラスト

～チューリップフェア(北島町)～



写真提供:北島町役場

北島町はチューリップの産地です。北島中央公園前の北島チューリップ公園で、毎年4月上旬から下旬にかけて、チューリップフェアが開催されています。今年は50品種約4万本のチューリップを植え付けしており例年どおりのオープンを予定していますが、暖冬の影響により早まる可能性もあります。

問い合わせ:北島町生産課
TEL. (088) 698-9806

おたより

徳島市
後藤 明子さん

84号のひょうたん島遊覧船の記事を読んでも懐かしかったです。私はもう5～6年、いや10年位前に一度乗せていただいたことがあります。その時、新町川沿岸がとてもきれいに整備され公園になったりしているのを知りびっくりしました。あれからまた大分変わっているのですね。久しぶりにまた乗せていただこうと思っています。

同い年でも四季折々にひょうたん島からみる景色も違います。是非乗ってみてくださいね(編)

亥の干支スレゾント

佐藤潔さんが吉野川の竹を使って作った亥の干支竹細工を抽選で2名様にプレゼントします。ご希望の方は、「竹細工」希望と記載の上、お葉書または、FAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もおかきください。締切は4月27日(金)です。



〒771-1156
徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部 竹細工プレゼント係